

新年のあいさつ



和水町長

石原 佳幸

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

また、平素より、町政に対しまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。年頭に当たり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

就任から早くも2回目の正月を迎えました。「人が元氣、町が元氣、新しい和水をつくる」という旗印のもと、まちづくり7つの政策を掲げ、全力で各施策に取り組んでおります。引き続き、責任感と使命感を持ち初心を忘れることなく、町政を進めて参ります。

昨年は、私たちの生活に多大な影響を与えた新型コロナウイルス感染症は、「5類」へと引き下げられ、町内においては、4年ぶりとなる第50回和水町古墳祭や第40回金栗四三翁マラソン大会、山太郎祭など感染対策を講じながら制限なく開催いたしました。町内外から多くの皆様にご参加いただき、賑わいの声を聞き、和水町に活気が戻ってきたと実感しております。

世界に目を向けますと、ウクライナ侵攻やパレスチナ・イスラエル戦争、北朝鮮によるミサイル発射など緊張感高まる国際情勢が私たちに大きな不安を与えております。さらに、戦争を背景にエネルギーや食料などの物価高騰や歴史

的な円安などにより、私たちの日常生活や地域経済に大きな影響をもたらしました。

そのような中、支援策として、本年1月には町民の皆様の家計負担の軽減及び地域経済の振興を図るため、和水町生活応援商品券を発行いたします。今後も、町民の皆様が安心して安定した生活を送ることができるよう、各種施策を推進して参ります。

本町では昨年を振り返りますと、4月に、子どもたちの賑やかな笑い声や笑顔があふれるよう、子育てを全力で応援したいという思いから、子ども子育て応援のまちとして、出生祝金の拡充や入学祝金の新設、保育所等の副食費、小中学校の給食費無償化などの子育て支援への取り組みを始めました。引き続き、子どもたちの健やかな育ちを助けるとともに安心して子育てができる環境の整備づくりに努めて参ります。

11月からは、マイナンバーカードを利用して、住民票、印鑑登録証明書をコンビニエンスストア等で取得できるコンビニ交付サービスを開始しました。また、先行的に町が発行する町税等の一部納付書をコンビニエンスストアやスマートフォンアプリを利用したお支払いが可能となりました。本年4月からは、全ての町税や各種料金の支払いが可能となるよう整備を進めており、引き続き、町民の皆様の生活がより便利となるよう取り組みを推し進めて参ります。

また、国史跡であり、和水町のシンボルである「江田船山古墳」は発掘150年を迎えました。出土した92件の副葬品は全て国宝に指定され、歴史的価値の高い資料として現在は東京国立博物館に展示保管されており、郷土の誇りであります。古墳公園一帯が今後さらに訪れる方々の憩いの場、賑わいあふれる場となるよう、整備を進めて参ります。

本年は、特別養護老人ホームきくすい荘の建替え工事業における造成工事への着工や親子三世代が集える公園整備等、町民の皆様が笑顔があふれる和水町の未来を見据え、和水町に必要なものは何かを見極めながら、そして、町民の皆様と対話を重ねながら取り組みを進めていかなければならないと考えております。

当町の将来像であります「笑顔輝き 魅力あふれる和水町」の実現に向け、町議会をはじめ各種機関と連携をとりながら、町民の皆様が笑顔で住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりの創造にまい進して参りますので、本年も引き続き皆様方のご理解とご協力賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本年が皆様にとりまして、幸多き素晴らしい一年となりますことを祈念申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。



和水町議会 議長

高木 洋一郎

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、和水町議会を代表して、町民の皆様にごあいさつを申し上げます。

町民の皆様におかれましては、新春をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から議会運営や議会活動に対し、深いご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

令和5年を振り返りますと、世界中で猛威を振るっていた新型コロナウイルス感染症は、5月に季節性インフルエンザ等と同様の分類である5類に引き下げられました。感染者数も減少し、賑わいのある日常生活に戻り、昨年は和水町古墳祭が4年ぶり、戦国肥後国衆まつりが3年ぶりに開催され、多くの観光客で賑わったところです。

世界に目を転じますと、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続いており、終息が見えない状況にあります。また、パレスチナ武装組織とイスラエルも戦争状態にあり、多くの尊い命が

奪われています。

日本の近隣でも覇権獲得を考える国や核開発を進める国などが存在しており、他人事ではないと感じています。

そのような中、昨年3月には、ワールドベースボールクラシックが開催され、見事、侍ジャパンが3大会ぶりの世界一に輝き、日本中に大きな感動と希望を与えてくれました。

また、今年の7月にはパリ・オリンピックが開催されます。本町出身であるさと大使第1号の廣田彩花選手が、2大会連続での出場を目指しています。町をあげて応援をし、パリ・オリンピックへの出場を願うばかりです。

さて、町議会では、少子化、高齢化などの諸問題の解決に向け、活発な議論を重ね、町民の皆様の期待に応えるべく努力してまいりますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって素晴らしい年になりますようお願い申し上げます。新年のごあいさつと致します。



和水町病院事業管理者

大島 茂樹

新年明けましておめでとうございます。地域の皆様にはつつがなく新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また日頃より、町立病院の運営に対しご理解・ご支援・ご協力をいただきまして厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスが5類に移行して初めてのお正月を迎えます。会食や旅行などの行動規制が解除され、久しぶりに親戚の方や友人と集える普段通りのお正月を過ごされていることと思います。第9波は9月末に終息しておりますが、今後次の波が来るのか一定数の発生はあるが波のないいわゆるエンデミックの状態になるのか注意深く経過を見守っている状態です。一昨年末まではかなり厳しい面会制限でご自由をおかけしましたが、5類移行からは人数や時間の制約はありませんが、面会も可能になっております。ウィズコロナの時代を迎え柔軟にかつ慎重に対応し、安全で快適な療養環境を整えて参りたいと思っています。

当院は地域医療構想の中で軽症から中等症の初期救急、回復期医療、慢性期医療、在宅医療の機能を担う病院として位置づけられております。昨年は回復期の機能を充実させるべく、リハビリのセラピストに言語聴覚士と作業

療法士を迎え、理学療法士と協働して回復期患者さんの機能向上に取り組んでいます。在宅医療では、くまもと県北病院の総合診療医にも加わったばかり4人体制で訪問診療を行っています。たまな在宅医療ネットワークにも参加し、在宅医療のご希望には可能な限り対応できるよう体制づくりを進めております。外来も従来の小児科・外科・内科・脳神経外科・整形外科に加え、呼吸器科外来・認知症外来・泌尿器科外来を増設し、自治体病院として地域に必要な医療の充実に努めております。また、遅ればせながら電子カルテを導入しました。医療情報の一元管理ができるため、職種間での情報共有に優れ、業務の効率化や医療安全の向上に寄与します。また、他施設との連携・情報共有など国が主導する医療DX（デジタルトランスフォーメーション：デジタル技術を活用した業務変革）に必須のアイテムです。

『地域住民から・連携機関から・そして職場として選ばれる病院』になるためには常に質の向上を意識することが大切だと感じております。安心して暮らせる地域づくりに貢献できるよう、本年も職員一同奮闘する覚悟です。どうぞよろしくお願い申し上げます。